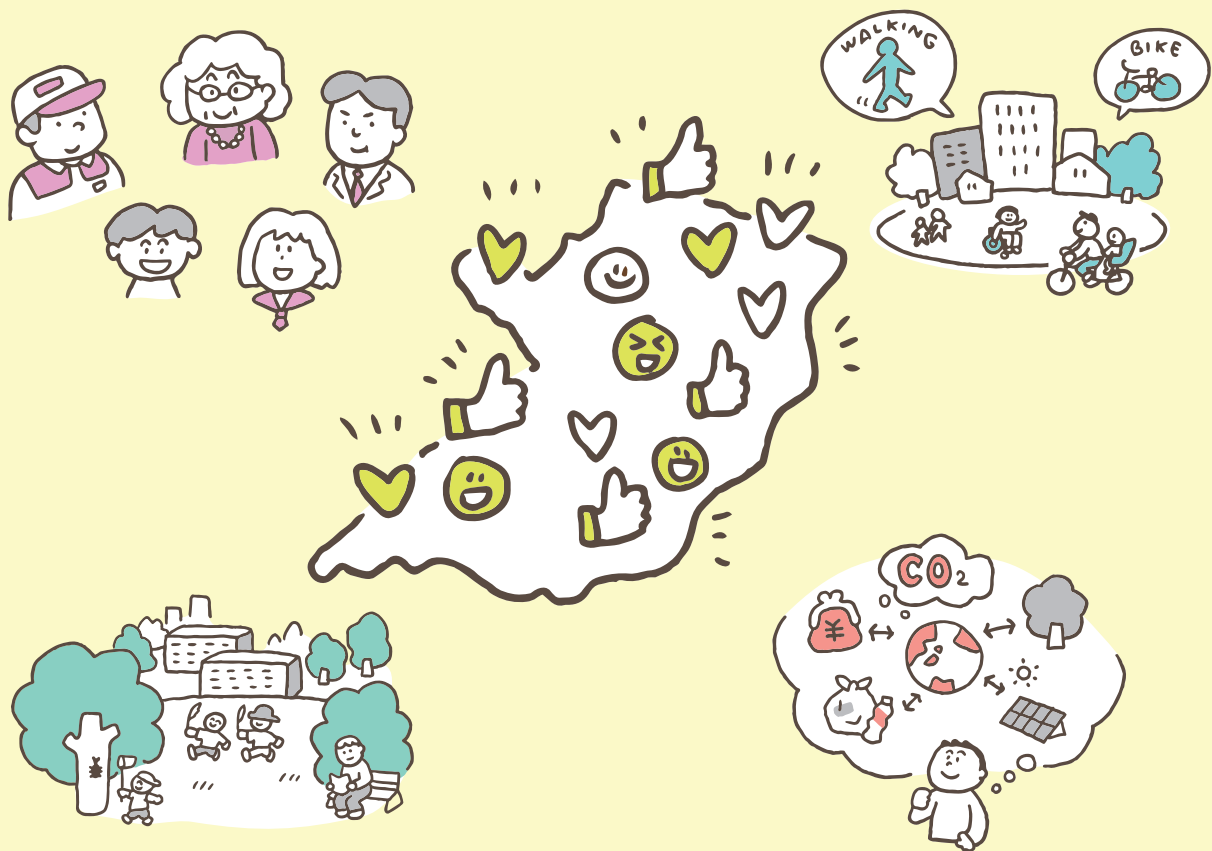


多摩市気候市民会議

脱炭素に向けた 市民からの提案



2023年8月

30 年後に実現したい

多摩市の 環境・社会のイメージ

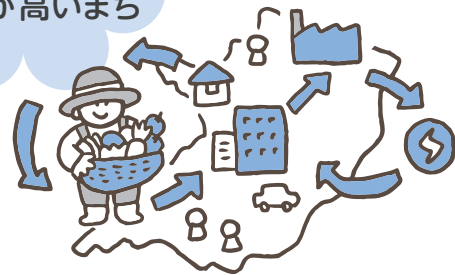
多摩市気候市民会議で 30 年後の将来イメージを出し合いました。
「市民提案」では、将来イメージの実現に向けた取組を提案しています。
多摩市の様々な人と一緒に、実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

動植物・生態系が豊かで、
人間と共存している

まち



食やエネルギーの
自給率が高いまち



リデュース・リユース・リサイクル、
シェアが進んだ、
ごみや無駄なロスがないまち



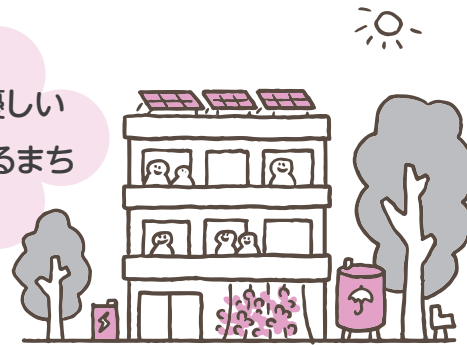
みどりや自然が豊かなまち



みどり豊かな住環境が整った
健康的に暮らせるまち



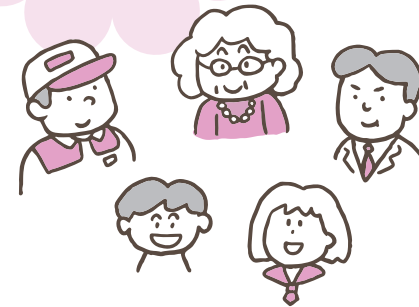
環境と経済に優しい
住まいに暮らせるまち



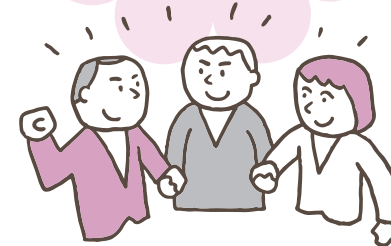
徒歩・自転車・ベビーカーや車椅子などで
移動しやすいまち



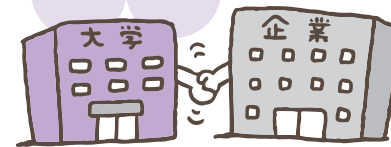
楽しく、笑顔で、
心豊かに過ごせるまち



みんなで協力して緑の保全や
気候変動対策に取り組んでいるまち



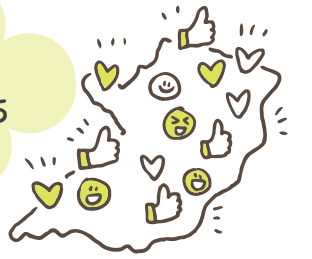
企業や大学等との連携を活かして、
気候変動対策が加速したまち



CO₂を排出しない
手段で移動できるまち



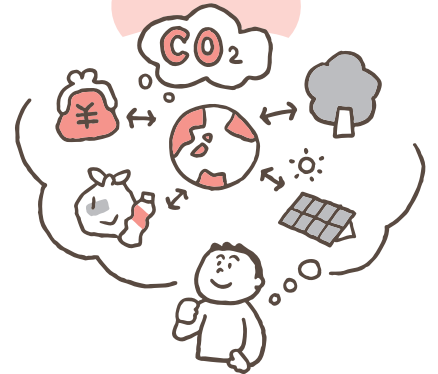
若い世代に
選ばれるまち



多摩市ならではのライフスタイルが
ブランドになっているまち



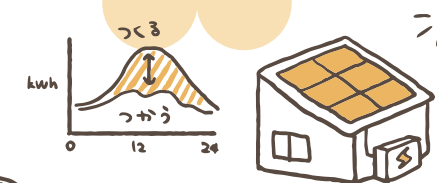
一人ひとりが気候変動対策を
自分ごととして捉えるまち



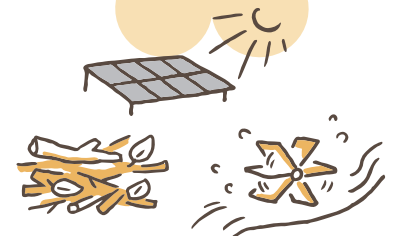
小中学校から
環境や気候変動についての教育が充実し、
情報発信を積極的に行うまち



エネルギー消費が少なく、
蓄めたエネルギーをみんなでかしく使えるまち



脱炭素なエネルギーを
つくるまち



多摩市気候市民会議による

「市民提案」

私たち多摩市気候市民会議は、脱炭素に向けた取組を進める上で、以下の5つの点を大切にすることを提案します。

全体方針

- 1

脱炭素の実現とともに豊かな暮らしを実現しよう

- 消費社会から脱却し、気候変動対策と生活の質（QOL）の向上を両立する
 - 楽しい気持ちで、我慢せずに継続できる対策を進める
- 2

みどり豊かな環境を活かそう

- 多摩市の魅力である身近なみどりに関わりながら、恩恵を享受する
 - 人間と動植物が共存しつつ経済が発展しているまちに
- 3

住民、企業、教育機関、行政等が共に取り組もう

- 地域コミュニティが世代を越えて、緑の保全や管理、気候変動対策を推進する
 - 住民、企業、教育機関、行政など様々な主体がそれぞれの役割を果たすとともに、協力しながら一緒にまち全体に対策を広げる
- 4

みんなの誇りと憧れを高められるまちにしよう

- 気候変動対策で若い人に「住みたい!」と思ってもらえる多摩市にする
 - 多摩市の暮らしを、新たなライフスタイルとして広げる
- 5

危機感を共有し、今すぐのスピード感で進めよう

- 今すぐ取り組まないと脱炭素は実現困難という危機感を共有する
 - はじめのステップを明確にして、今すぐスピード感をもって取り組む

多摩市気候市民会議とは？

無作為抽出で選ばれたさまざまな年代の市民が集まり、多摩市の脱炭素に向けた取組を考えました。

専門家から学びながら、全5回の議論を通じて、個人としてできる取組や工夫から、まちに必要な機能まで、さまざまな取組を検討。目指したい30年後のまちの姿の実現に向けて、気候市民会議として大切にすべきと考える5つの全体方針と、7つのテーマ別の具体策をとりまとめました。

みんなでたくさん話し合いを重ねました

多摩市気候市民会議を通じて、脱炭素に向けた取組のアイデアをたくさん出し合いました。その中から、投票や評価アンケートによって重要とされたものを「市民提案」としてまとめました。

市民提案に記載されなかった内容もたくさんあります！各回の開催レポートをぜひ見てみてください。

市民提案の作成プロセスについては P21~22 をチェック！

さまざまな取組を検討し、以下の7つのテーマごとに整理しました。

多摩市で脱炭素の実現に向けて、実施すべき具体的な取組をテーマごとに提案します。

テーマ別の提案

- p. 5

食・消費
- p. 7

ごみ・資源循環
- p. 9

暮らし・住環境
- p. 11

エネルギー
- p. 13

移動
- p. 15

教育・情報発信
- p. 17

イノベーション・研究・新技術

テーマ別提案ページの読み方

提案の全体像

テーマごとの提言の概要、ロードマップ、協働の体制

具体的な取組の提案

将来像と具体的な取組提案

たくさんのアイデアの中から、投票や評価アンケートによって重要な取組を整理し、さらに議論を重ねて具体化した取組を提案しています

取組提案のカテゴリ

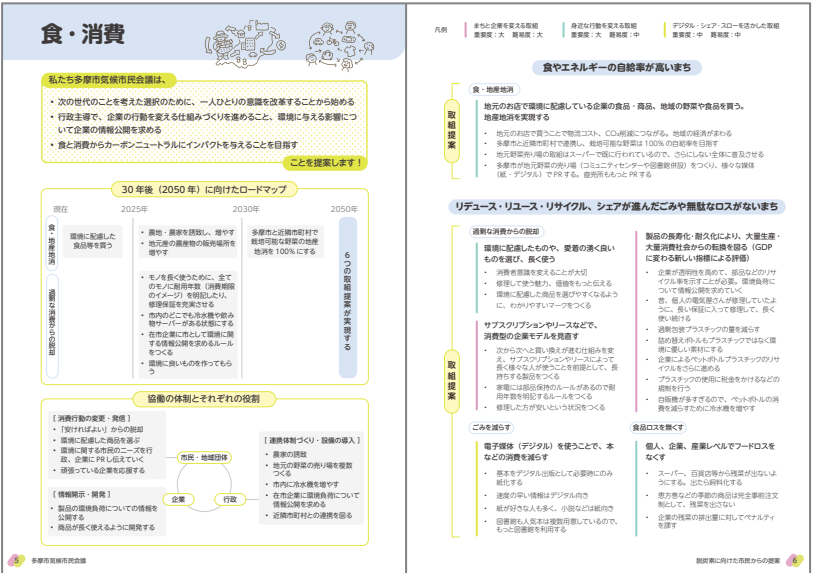
参加者の評価による分類

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

具体策の評価結果については P19 を参照



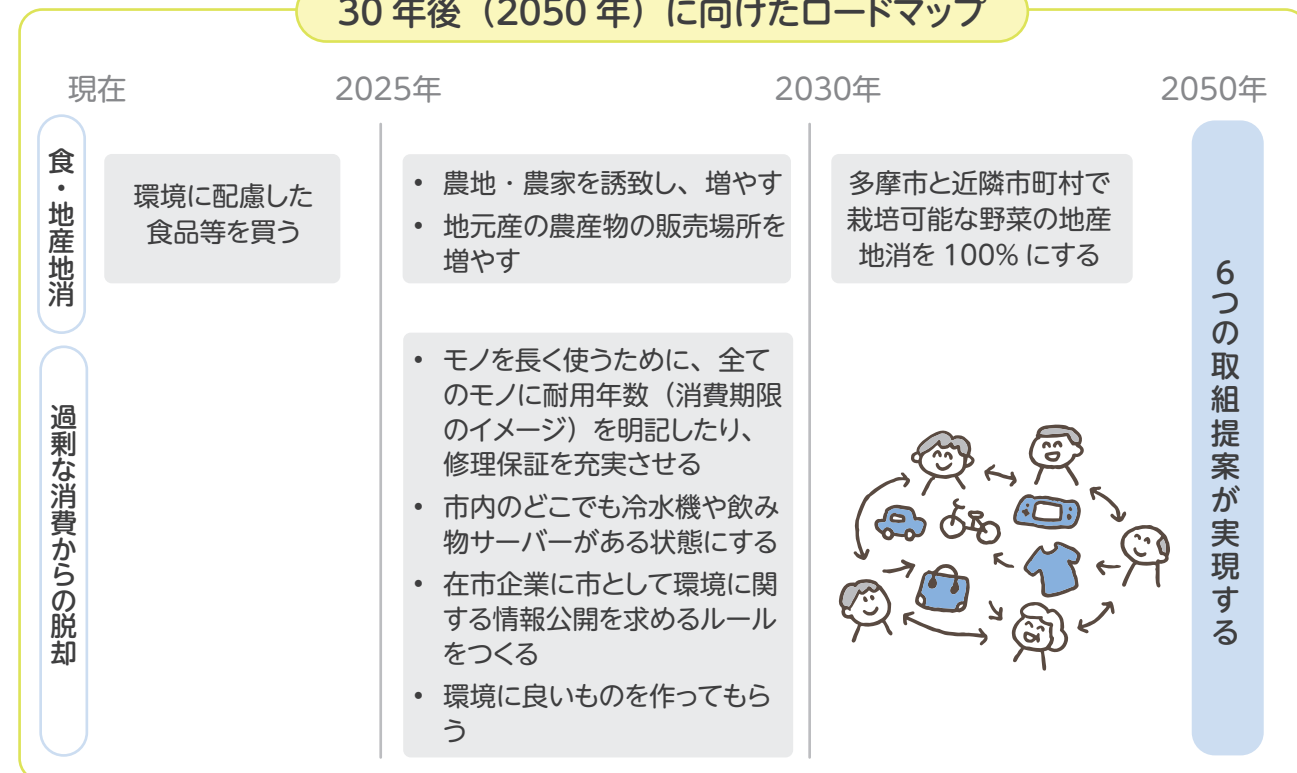


私たち多摩市気候市民会議は、

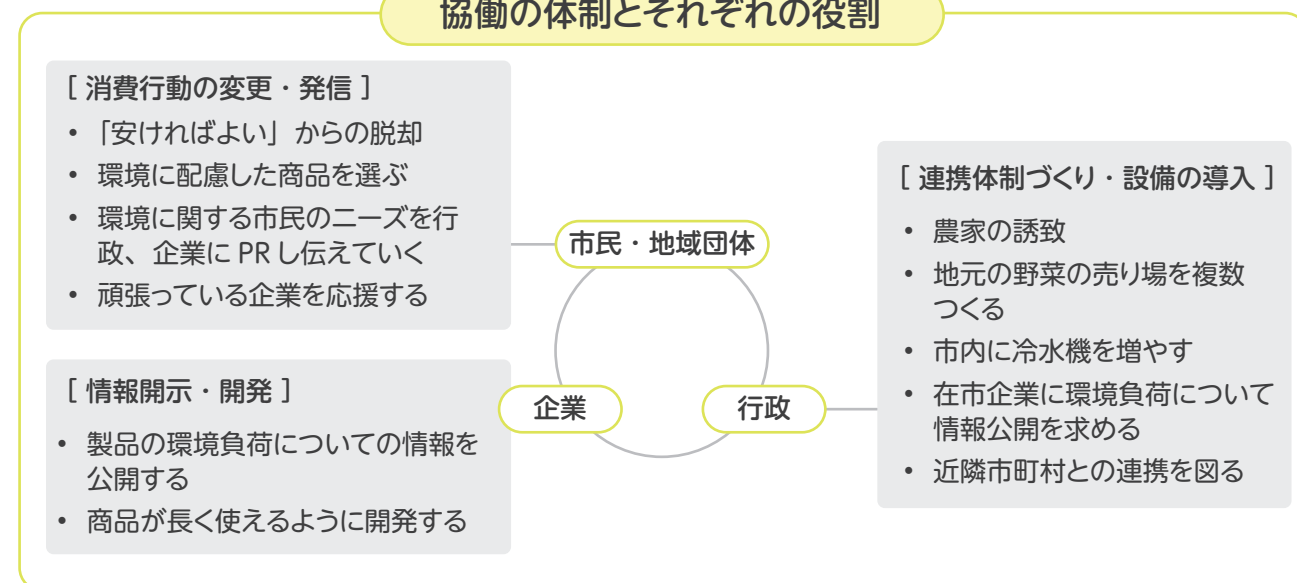
- ・ 次の世代のことを考えた選択のために、一人ひとりの意識を改革することから始める
- ・ 行政主導で、企業の行動を変える仕組みづくりを進めること、環境に与える影響について企業の情報公開を求める
- ・ 食と消費からカーボンニュートラルにインパクトを与えることを目指す

ことを提案します！

30年後（2050年）に向けたロードマップ



協働の体制とそれぞれの役割



凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

食やエネルギーの自給率が高いまち

食・地産地消

取組提案

地元のお店で環境に配慮している企業の食品・商品、地域の野菜や食品を買う。
地産地消を実現する

- ・ 地元のお店で買うことで物流コスト、CO₂削減につながる。地域の経済がまわる
- ・ 多摩市と近隣市町村で連携し、栽培可能な野菜は100%の自給率を目指す
- ・ 地元野菜売り場の取組はスーパーで既に行われているので、さらに市内全体に普及させる
- ・ 多摩市が地元野菜の売り場（コミュニティセンターや図書館併設）をつくり、様々な媒体（紙・デジタル）でPRする。直売所ももっとPRする

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだごみや無駄なロスがないまち

過剰な消費からの脱却

環境に配慮したものや、愛着の湧く良いものを選び、長く使う

- ・ 消費者意識を変えることが大切
- ・ 修理して使う魅力、価値をもっと伝える
- ・ 環境に配慮した商品を選びやすくなるように、わかりやすいマークをつくる

サブスクリプションやリースなどで、消費型の企業モデルを見直す

- ・ 次から次へと買い換えが進む仕組みを変え、サブスクリプションやリースによって長く様々な人が使うことを前提として、長持ちする製品をつくる
- ・ 家電には部品保持のルールがあるので耐用年数を明記するルールをつくる
- ・ 修理した方が安いという状況をつくる

取組提案

製品の長寿化・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る（GDPに変わる新しい指標による評価）

- ・ 企業が透明性を高めて、部品などのリサイクル率を示すことが必要。環境負荷について情報公開を求めていく
- ・ 昔、個人の電気屋さんが修理していたように、長い保証に入って修理して、長く使い続ける
- ・ 過剰包装プラスチックの量を減らす
- ・ 詰め替えボトルもプラスチックではなく環境に優しい素材にする
- ・ 企業によるペットボトルプラスチックのリサイクルをさらに進める
- ・ プラスチックの使用に税金をかけるなどの規制を行う
- ・ 自販機が多すぎるので、ペットボトルの消費を減らすために冷水機を増やす

ごみを減らす

電子媒体（デジタル）を使うことで、本などの消費を減らす

- ・ 基本をデジタル出版として必要時にのみ紙化する
- ・ 速度の早い情報はデジタル向き
- ・ 紙が好きなのも多く、小説などは紙向き
- ・ 図書館も人気本は複数用意しているので、もっと図書館を利用する

食品ロスを無くす

個人、企業、産業レベルでフードロスをなくす

- ・ スーパー、百貨店等から残菜が出ないようにする。出たら飼料化する
- ・ 恵方巻などの季節の商品は完全事前注文制として、残菜を出さない
- ・ 企業の残菜の排出量に対してペナルティを課す

ごみ・資源循環

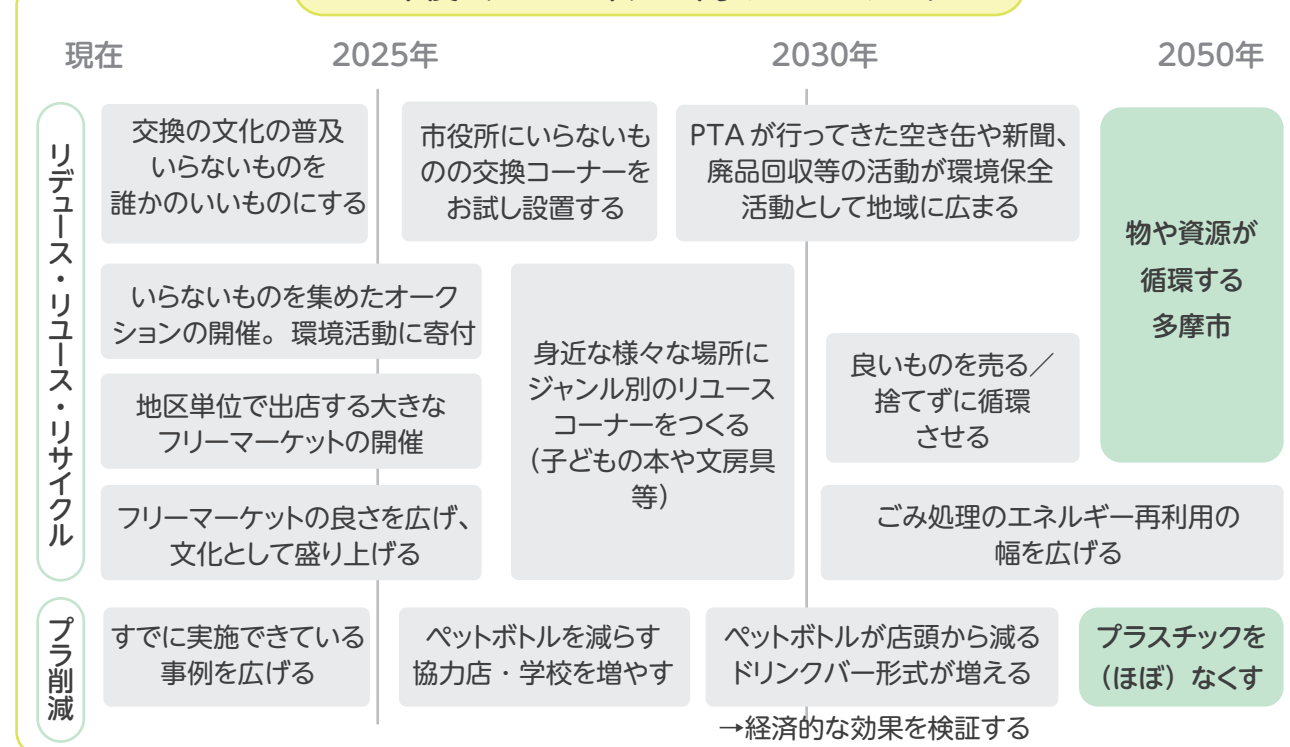


私たち多摩市気候市民会議は、

- ・モノを大切にする気持ちを持って生活し、個人・家庭から行動することを大切にする
- ・企業は、プラスチックや捨てやすいモノの製造・販売を見直し、環境に優しい素材を使った良い物をつくることを求める
- ・行政は、モノの交換やプラスチックフリーなライフスタイルを身近な場所では実現できる環境づくりを公共施設から始め、市内に広げる
- ・市民はフリーマーケットやリサイクル活動を文化とし、良いものを次につなぐ精神をもって輪を広げていくことを目指す

ことを提案します！

30年後（2050年）に向けたロードマップ



協働の体制とそれぞれの役割

〔取組を実践する・広げる〕

- ・一人一人がごみを出さないよう取り組む
- ・環境に興味がない人も楽しく参加できる取組を広げる
- ・大事な取組を発信する・実践する

〔商品の工夫〕

- ・消費者のニーズを受けて取組にチャレンジする
- ・過剰包装をしない包装を工夫する
- ・プラスチックを使わない自然に還る素材を使う

市民・地域団体

企業

行政

〔モデル実施・仕組みづくり〕

- ・交換の場を提供する
- ・学校から取組を推進する（ドリンクバーなど）
- ・ドリンクバーのような提供方法を普及させる
- ・分別のしやすいごみ回収の仕組みをつくる
- ・企業と連携し、デポジット方式を広げる
- ・優良な取組事例の周知

凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだごみや無駄なロスがないまち

3R：リデュース・リユース・リサイクル

不要になるものは買わない。ごみが出ることを減らす〔リデュース・リサイクル〕

- ・まずはごみを減らすことが大事
- ・ごみの削減がCO₂の削減につながる
- ・必要な分だけ買うようにする
- ・出してしまったごみはしっかり分別する
- ・消費が減っても成り立つ経済をつくる

ごみ箱を広くまちなかに設置して、しっかり分別と管理をすることで、回収したごみを効率的にエネルギーに変換する

- ・買ったラベルやキャップをすぐ分別して捨てられるごみ箱を設置する
- ・ごみ回収作業が、高齢者や障がいのある方などの雇用にもつながり、セーフティネットのようなものになる
- ・ごみ箱を増やすとごみが増える可能性もあるので、慎重に進める
- ・学校から試してみる
- ・企業はラベルがない商品を検討する

不要になってしまったものは

捨てるのではなく、必要としている人に譲り、循環のサイクルを実現する〔リユース〕

- ・使いたい人に譲る、寄付をする、リメイクする
- ・まわりに必要としている人がいない場合は公共施設に回収場所を設置し活用する
- ・子ども服などを地域で交換できる場をつくる（フリマサービスのような代価のある交換も活用する）

取組提案

使い捨てプラスチックの削減

プラスチック製品を減らした生活をする

- ・詰め替え用の製品にしてボトルは再利用することでプラスチック消費量を減らす
- ・プラスチックで過剰包装されたものは選ばない
- ・プラスチック以外の包装の仕方を検討する（昔は木の皮の器や新聞紙で包んでいた）
- ・減らすのはもちろん、長持ちする素材や自然に還る自然素材でつくっているものを買う
- ・個人の消費行動で企業を変える。意識のある消費者を増やし、取り組む企業を増やす

コンビニや自動販売機などを、ドリンクバーや給水機に変えて、ペットボトルの消費を減らす

- ・使い捨てボトルではなく、マイボトル等に水だけではなく好きなドリンクを入れることができるしくみをつくる（多少有料でも良い）
- ・学校、行政や大企業主導から始めることで、インパクトを狙う

使い捨てをなくすためにマイ〇〇を使う

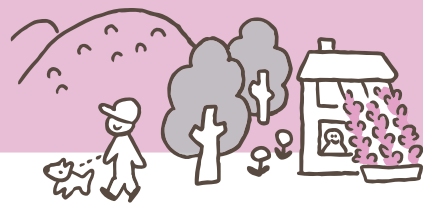
- ・「〇〇」は、ボトル・水筒、箸、瓶、容器・弁当箱、袋、ストローなどのさまざまな道具
- ・既に持っているものを使って、なるべく新たに買わずに、マイ〇〇を用意して移行する

リサイクルを促すために、ペットボトルもデポジット方式にする

- ・自動販売機の横に返金される機能やポイント機能が付いたリサイクルボックスを設置する
- ・分別しなくなる仕掛けにする
- ・一部商業施設では既に実施しているので普及させる

プラスチックのストローをなくす

- ・学校では給食の牛乳パックが瓶に代わりストローをなくすことに成功している。今後はストローを使っているお店などに、使い捨てプラスチックではないストローを使うか、ストローを必要としない飲料の提供方法に切り替える

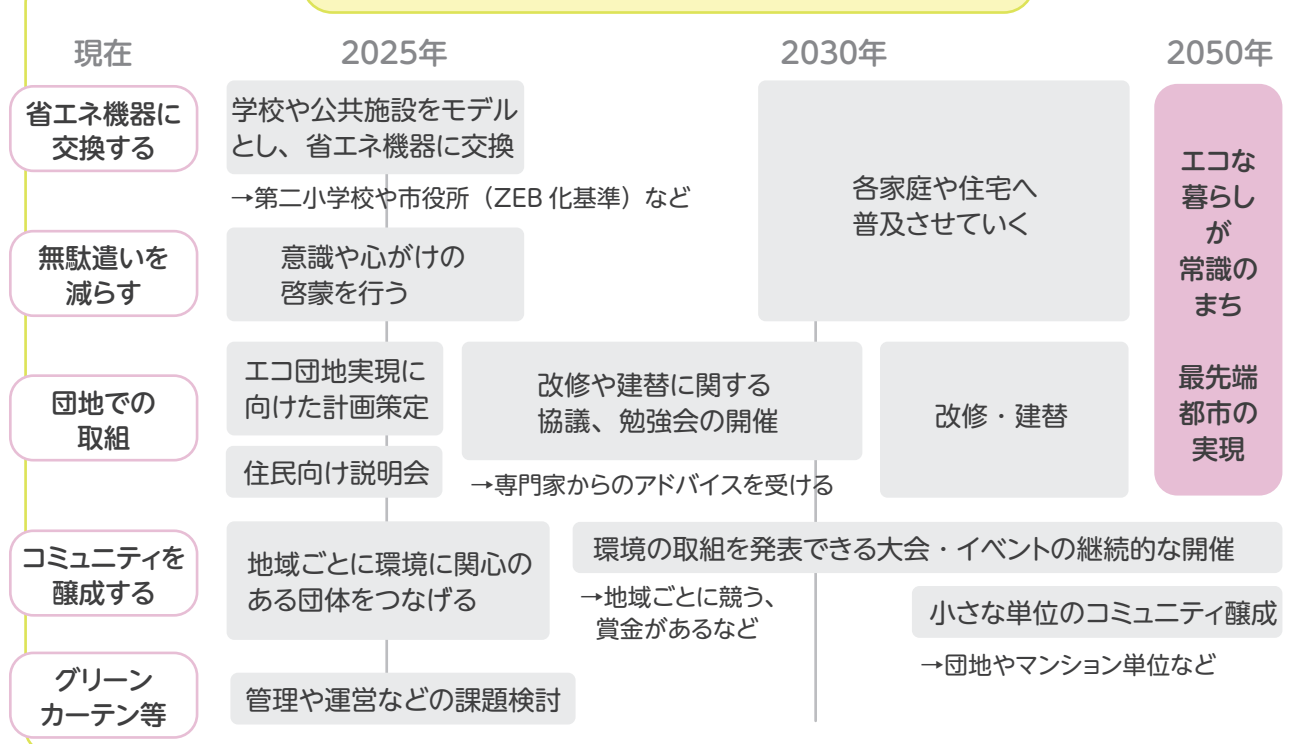


私たち多摩市気候市民会議は、

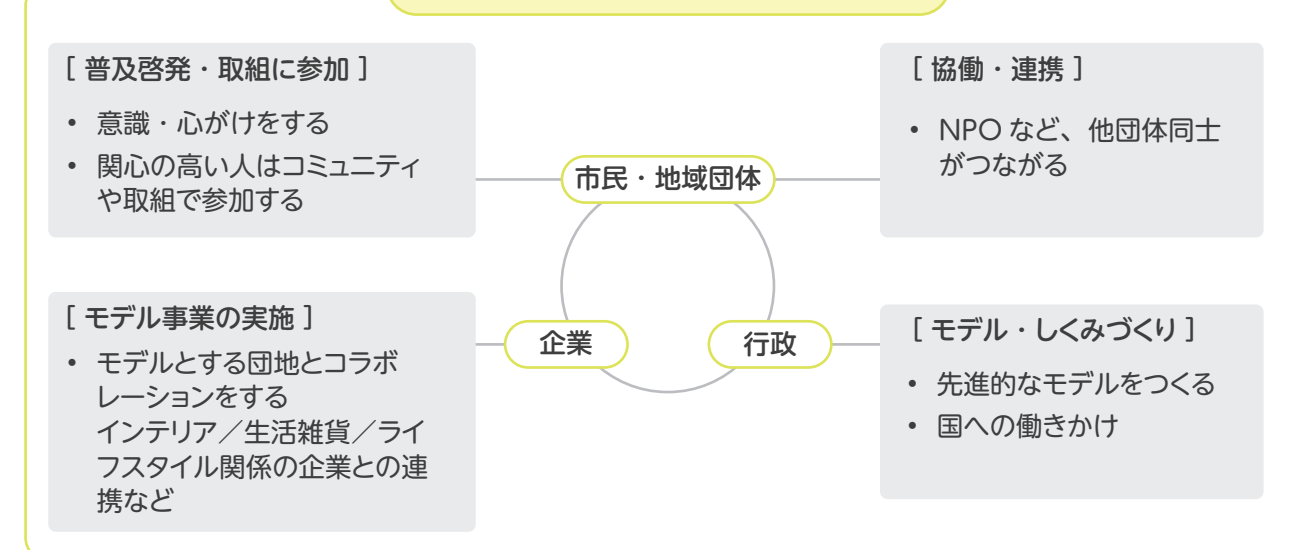
- ・多摩市が環境における最先端都市となり、エコな暮らしが常識であるまちを実現する
- ・市民1人1人の意識が高まるようなコミュニティを育む
- ・公共施設等の建築物から環境対策に取組み、まちとしての変化が見える化させる
- ・生活基盤である住宅等の建築物への対策を徹底することが社会へのインパクトをもたらすため、建築物における環境対策の義務化を行う

ことを提案します！

30年後（2050年）に向けたロードマップ



協働の体制とそれぞれの役割



凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち

住まいの省エネ

電気や水道水などの無駄遣いにつながる行動をなくす

- ・行動を無くすための意識・心がけをする
- ・電気をつけっぱなしにしない
- ・水を出しっぱなしにしない

照明、家電や電気機器を省エネ対応のものへ適切に交換し、エネルギー効率が良い住まいにする

- ・すでに学校や公共施設では人感センサーのものに切り替わっている場所がある
- ・電気などの無駄遣いを解決する手法の1つとして、公共施設等をモデルとし、先行して行う



エコ住宅・タウンの推進

より豊かで便利な暮らしを送ることができるエコ住宅・団地の改修を推進させる

- ・脱炭素生活を送りながらも、より豊かで便利な暮らしができるエコ団地への改修を市が主導して行う
- ・団地の種類により意思決定が異なるため、それぞれの意思決定に合わせ丁寧に進める
- ・バリアフリー法のように、これからの建築・改修において、省エネや環境配慮が必要な条件となるように法律で義務化する
- ・学習ルーム、ゲストルームなどの共有スペースを増やすことで、各家庭でのエネルギー使用量を減らし、共有スペースの運用には再生可能エネルギーを使用する
- ・団地の改修の際に、モデル団地を位置付けることで企業が積極的に関わられるようにする
- ・住宅の太陽光パネル設置は、行政主導でエリアごとに実施し、各家庭のコストを削減させる



多摩らしさのある環境コミュニティが醸成され、エコな暮らしが当たり前になっている

- ・多摩らしさのあるモデル的な環境コミュニティをつくる
- ・エネルギー効率がよく、自給自足もできる、エコな暮らしが当たり前になっている
- ・エコではない暮らしよりも、エコな暮らしを選択した方が豊かで便利な暮らしが送れる

みどり豊かな住環境が整った、健康的に暮らせるまち

グリーンカーテンや葦簀（よしず）、打ち水やミストなどを活用し、エアコンの温度を上げることで住まいのエネルギー効率を上げる

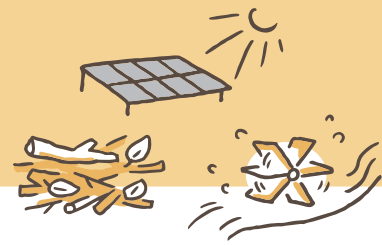
- ・太陽光を遮って部屋の温度を下げる。育てることにより、自然への気づきを得る
- ・蜂が巣をつくる課題もあるが、葦簀（よしず）など管理がしやすいものを活用する
- ・散水・打ち水の実施、ミストなどを設置、水で遊べる場などをつくる

団地内にみどりや住環境について話せる場やガーデニング、シェア農園などの取組を進める

- ・団地や集合住宅の係のなかに、水や電気などから環境について継続して考える担当をつくる
- ・居住者向けのフリーマーケットやガーデニング、シェア農園（屋上菜園）などに取り組む
- ・大規模な団地では、敷地内をシェアサイクルなどで移動できるようにする

【関連テーマ：移動】

エネルギー

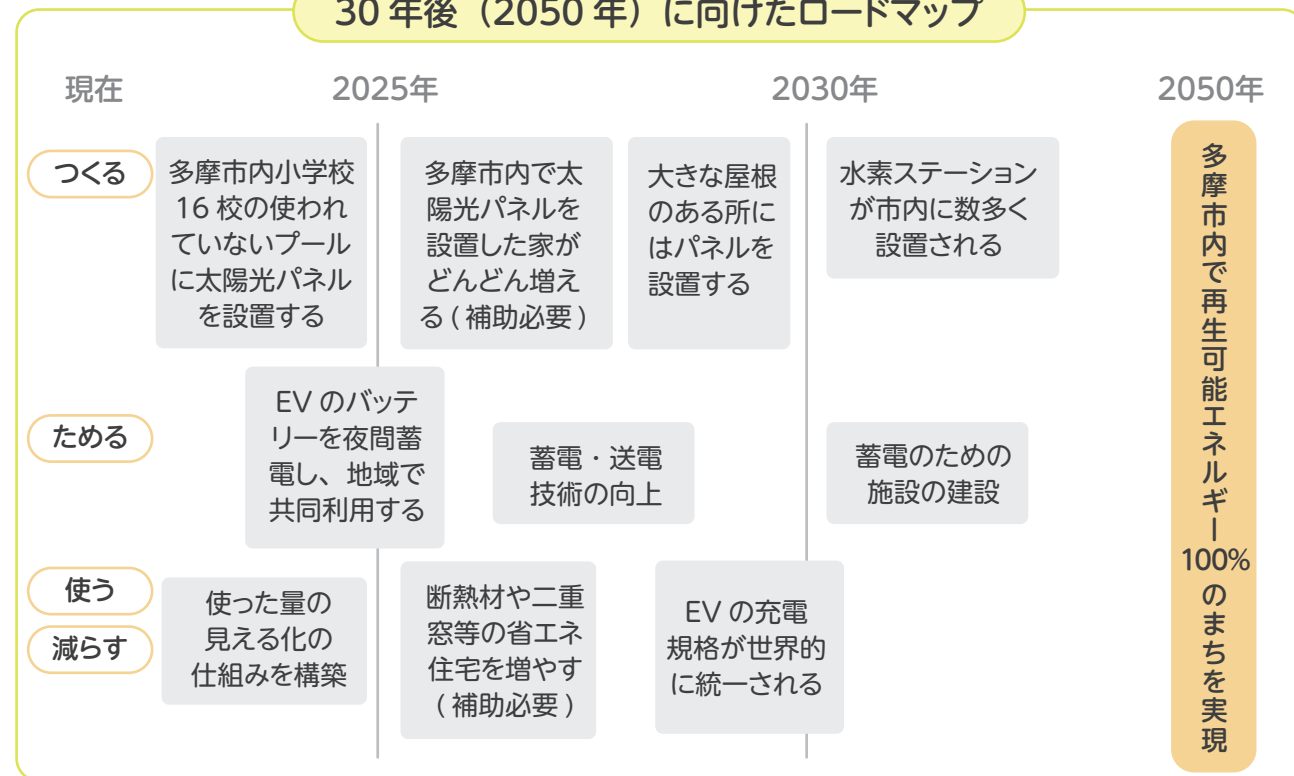


私たち多摩市気候市民会議は、

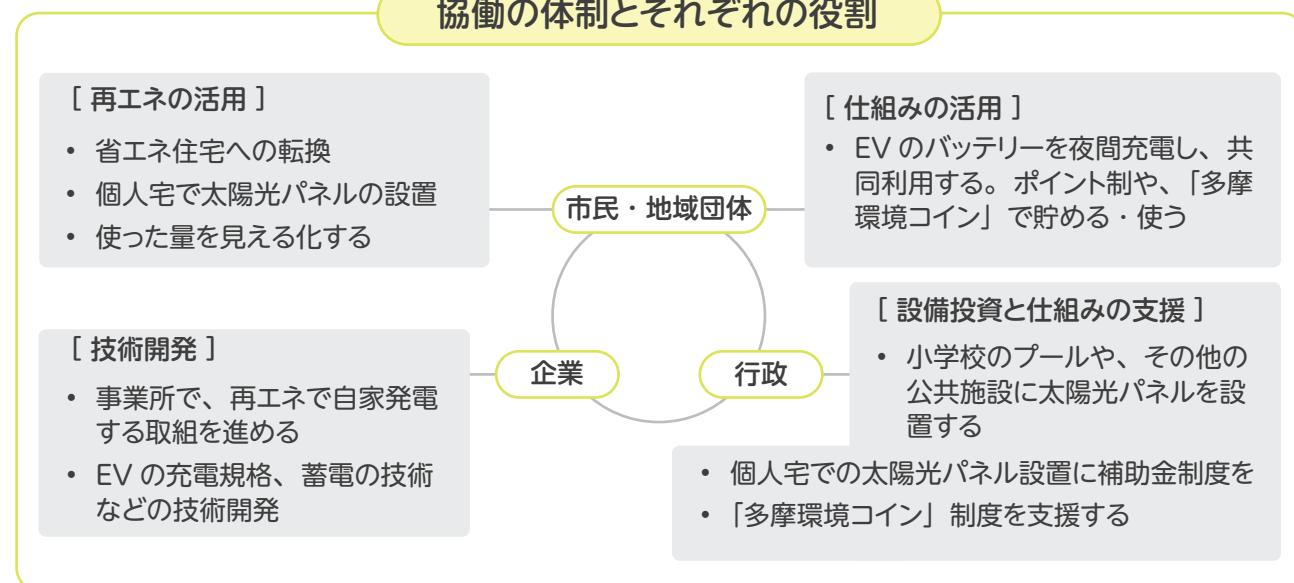
- ・ クリーンなエネルギーへの転換を図るため、多摩市内で再生可能エネルギー利用 100% のまちの実現を目指す
- ・ そのために、トライしたことに対してアップデートを絶やさず、PDCA サイクルや気候市民会議のような場での発信を大切にして、無理なく、楽しく多くの市民の理解を得る

ことを提案します！

30 年後（2050 年）に向けたロードマップ



協働の体制とそれぞれの役割



凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

脱炭素なエネルギーをつくるまち

太陽光発電は、パネルの製造から廃棄までを考えて広めていく

- ・ 製造から廃棄まで考えることで、他の環境問題の対策を考える際のモデルになる
- ・ 製造については産業として育てる。廃棄については環境への影響を少なくする

太陽光発電が広がる基準や仕組みをつくる

- ・ 太陽光パネルの設置や継続に対して補助金を給付する
- ・ 屋根を行政に貸出す仕組みをつくり、設置からメンテナンスまでを行政が担うことで、住民の負担を減らす
- ・ 耐震基準のように、パネルの設置や断熱機能などにおける基準を定めて義務化する
- ・ 多摩市の小学校 16 校の陽当たりが良い未利用プールを活用し、太陽光パネルを設置する（災害時にも役立つ）

水素ステーションを増やし、水素エネルギーを活用する

- ・ 水素ステーションを市内に数多く設置する

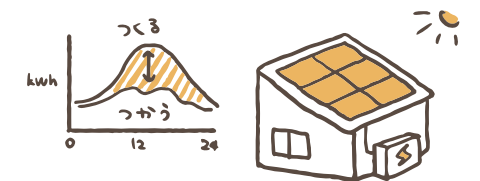
〔関連テーマ：移動〕

ごみやバイオマスなどを活用して、地域でエネルギーを発電し地域で有効に使う、エネルギーの地産地消の仕組みをつくる

- ・ 多摩市ではごみ処理場の熱をプールや公共施設などに利用している（再エネではなく火力だが、ごみは燃やさなくてはならない）が、そのような取組を進める
- ・ 廃食油も回収すれば SAF（持続可能な航空燃料）になるので、多摩市として収集して活用する

人が集まるところに楽しく発電できる機能をつくる

- ・ サイクル発電、ランニング発電、トランポリン発電、お散歩発電など、様々な「遊び」を使って発電を可視化し、楽しくする



エネルギー消費が少なく、蓄めたエネルギーをみんなでかしく使えるまち

省エネ+蓄エネの取組を進める

- ・ 家屋に断熱材や二重窓を取り入れる（効果的補助ありとする）
- ・ 省エネ家電に買い替え時に補助する
- ・ グリーンカーテンの取組を進める
- ・ EV のバッテリーを地域の人たちで共同利用できるような仕組みをつくる
- ・ 蓄電のための施設を建設する
- ・ EV のバッテリーを住宅用にリサイクルして蓄電池として活用する新サービスの活用
- ・ 太陽光のエネルギーで水素を作って蓄める技術の実用化

〔関連テーマ〕

暮らし・住環境、移動、イノベーション・新技術・研究

仮想通貨「多摩環境コイン」の活用や分かりやすく効果を見える化する仕組みをつくる

- ・ 環境コインやポイント制で省エネ+蓄エネの取組を進める
- ・ 家庭での電気の消費量も家庭内で見える化できる仕組みを取り入れる

取組提案

取組提案

移動

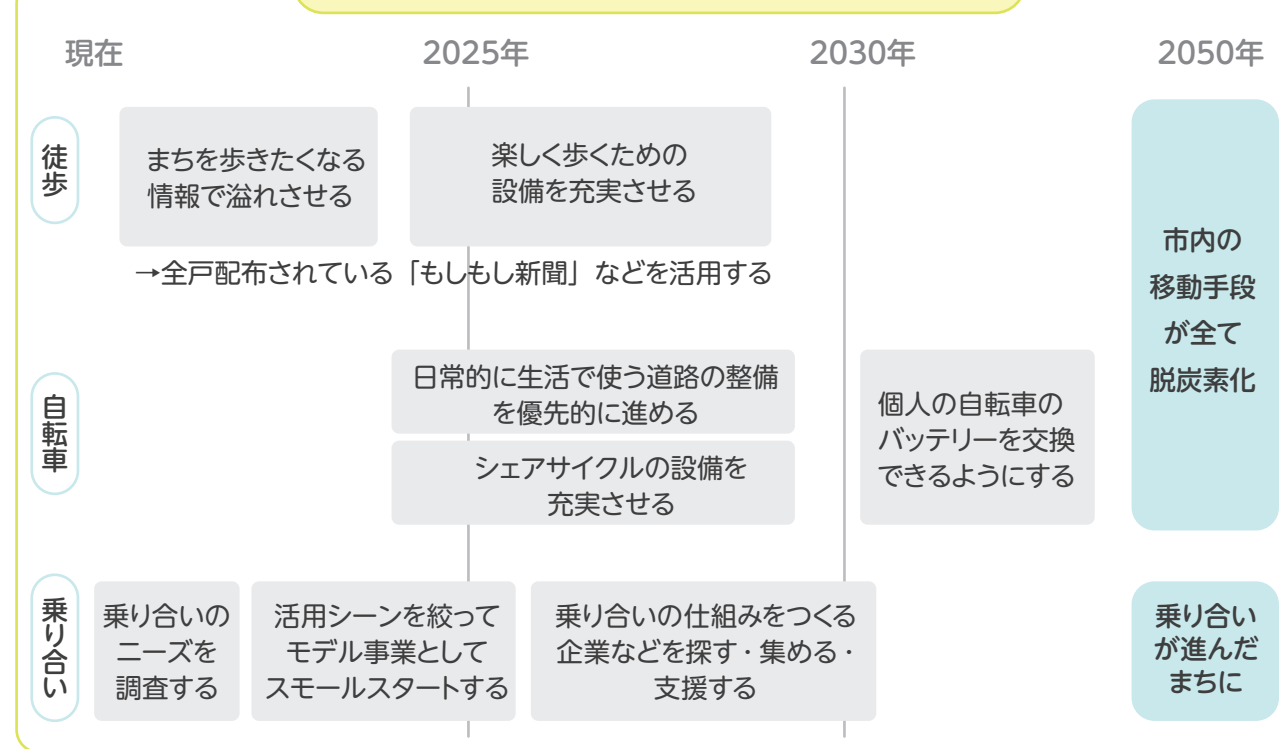


私たち多摩市気候市民会議は、

- ・ 市内の排出量が約 14% である移動は脱炭素に向けて大事な分野であるため、市内の移動手段の全てを脱炭素化することを目指す
- ・ 徒歩、自転車、車、車椅子、ベビーカー、杖をついている人など、多様な移動手段や能力があることを踏まえる
- ・ 多様なライフステージ、バックグラウンド、歩行・移動の能力がある市民に合わせて、様々な移動の選択肢があることが大切にする

ことを提案します！

30 年後（2050 年）に向けたロードマップ



協働の体制と それぞれの役割

- 〔声を集めて届ける・応援〕
- ・ 多様なニーズを行政に届ける
 - ・ 求めるサービスを実現するために企業を応援する・動かす

- 〔サービス開発・設備の整備〕
- ・ 乗り合いサービスをつくる
 - ・ 企業と自治体が連携して移動のあり方、通勤を考える
 - ・ 都心に通勤しなくても良いためにワークシェアスペースを市内につくる

市民・地域団体

企業

行政

- 〔情報発信・普及啓発〕
- ・ 「もしもし新聞」など既存のメディアを活用して、歩きたくなるコンテンツを集め、発信する

- 〔設備の充実・整備〕
- ・ 歩道・自転車道の整備
 - ・ シェアサイクルや充電スポットを拡充するための連携・支援
 - ・ 乗り合いサービスの実現に向けて企業との連携・調整

凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

徒歩・自転車・ベビーカーや車椅子などで移動しやすいまち

徒歩

なるべく歩いて移動する

- ・ 脱炭素だけではなく、健康づくりにも良い徒歩を、個人の取組として心がける

楽しく歩いて移動できる環境をつくる

徒歩での移動を促すためのハード整備やソフト面の取組を並行して進める

ハード：

- ・ 歩きやすい舗装、休憩場所、ベンチなどを設置する

ソフト：

- ・ 多摩市は遊歩道が 40km 以上あり、公園、川、緑などの歩く環境が整っているため、その魅力を発信する
- ・ 見頃の花やその場の魅力など、楽しく歩けるコンテンツや楽しみ方を伝える
- ・ 他都市に出かけなくても多摩市内で楽しめる、公園や緑の資源を活かしたコンテンツを整える

〔関連テーマ：教育・情報発信〕

自転車

車の利用を減らし、
なるべく公共交通や自転車を使う

- ・ 近隣へは徒歩や自転車で行く
- ・ 遠方には自転車、バスや電車で移動する。最終手段として、車を使う
- ・ 電車に自転車を乗せられるようにする

自転車道を整備する

- ・ 一般市民が日々の生活で安心して自転車に乘れるように、道路環境を整備する
- ・ まずはポールなどすぐに実施できる方法で、車と分離して安全に乘れるようにする。いずれは自転車優先道を整備する

自転車のシェアリングスポットを増やして
便利にすることでシェアリングを増やす

- ・ 住宅地にスポットを増やすことで利便性を高める（駅前などの便利な場所には十分にあるが、生活圏の中にはない）
- ・ 地域コミュニティの拠点とシェアリングスポットを組み合わせることで、口コミで広げる
- ・ 市民への特典など利用を促すインセンティブを提供する

自動運転技術の向上により、車と自転車がスムーズに移動している未来を想定

CO₂を排出しない手段で移動できるまち

車移動・乗り合い

乗り合いで、排出量を減らす

- ・ 乗り合いノライドシェアを可能にする環境や制度を整える
- ・ 実現方法の検討、インセンティブなどの仕組みづくり、タクシー会社との連携が必要
- ・ ベンチャー企業や起業家の協力、市・市民による投資が必要

車を利用する場合はエコドライブし、
環境に配慮した車を選ぶ

- ・ 運転の仕方を変えて、すぐに効果を出す
- ・ 環境に配慮した車の所有や環境の整備は、個人の責任ではなく、まち全体の責任として捉える
- ・ 自宅でも充電できるように支援する

自転車

個人が所有する電動自転車のバッテリーを
太陽光発電で充電できるスポットをつくる

- ・ すでに太陽光発電をしている学校などにモデル事業として設置する
- ・ 多摩市全体を発電所・電力供給源にする多摩モデルをつくる
- ・ 充電場所：団地・集合住宅・戸建ての住居、駅、学校、商業施設、公共施設など
- ・ 将来的には、バッテリーを交換できる仕組みを開発する

聖蹟桜ヶ丘と多摩センターの間に若者が担う
人力車を走らせ、観光も呼び込む

- ・ 聖蹟桜ヶ丘と多摩センターを人力車で結ぶ





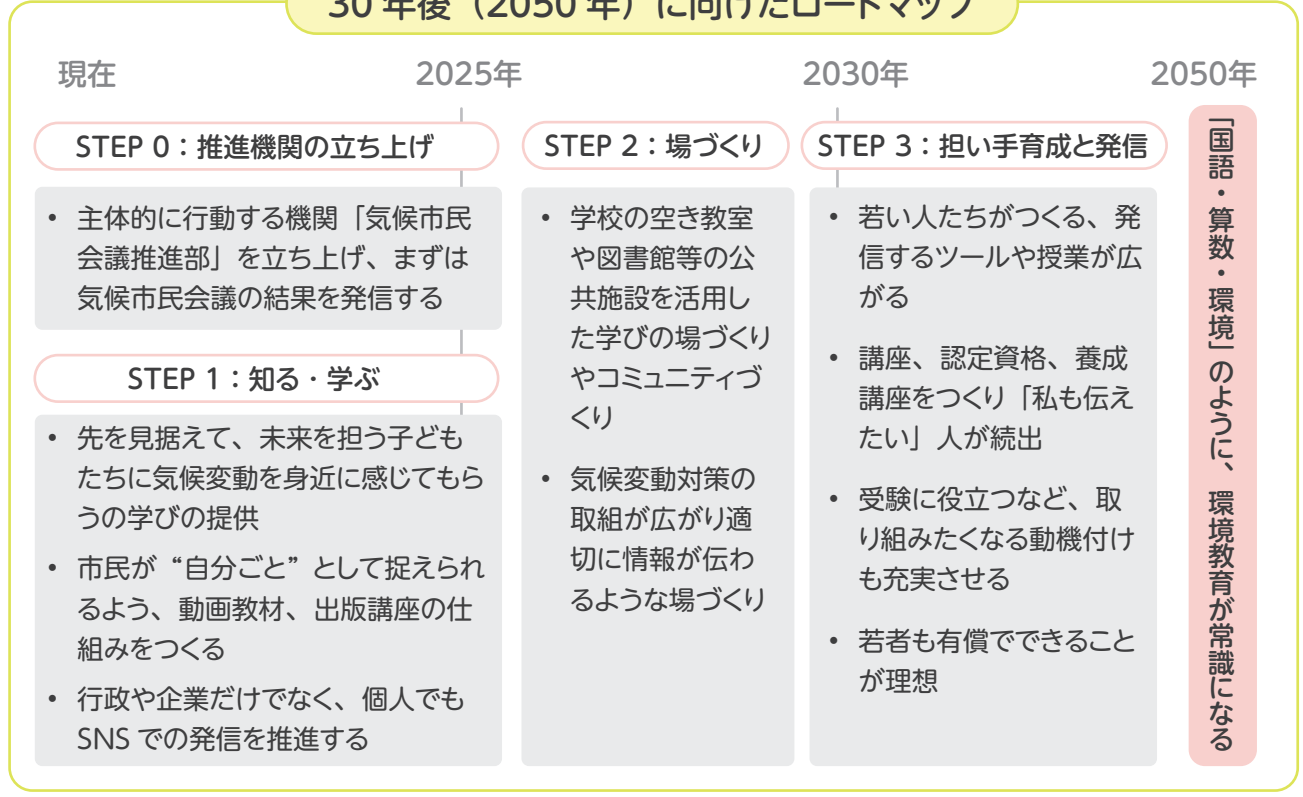
凡例	まちと企業を変える取組	身近な行動を変える取組	デジタル・シェア・スローを活かした取組
	重要度：大 難易度：大	重要度：大 難易度：中	重要度：中 難易度：中

私たち多摩市気候市民会議は、

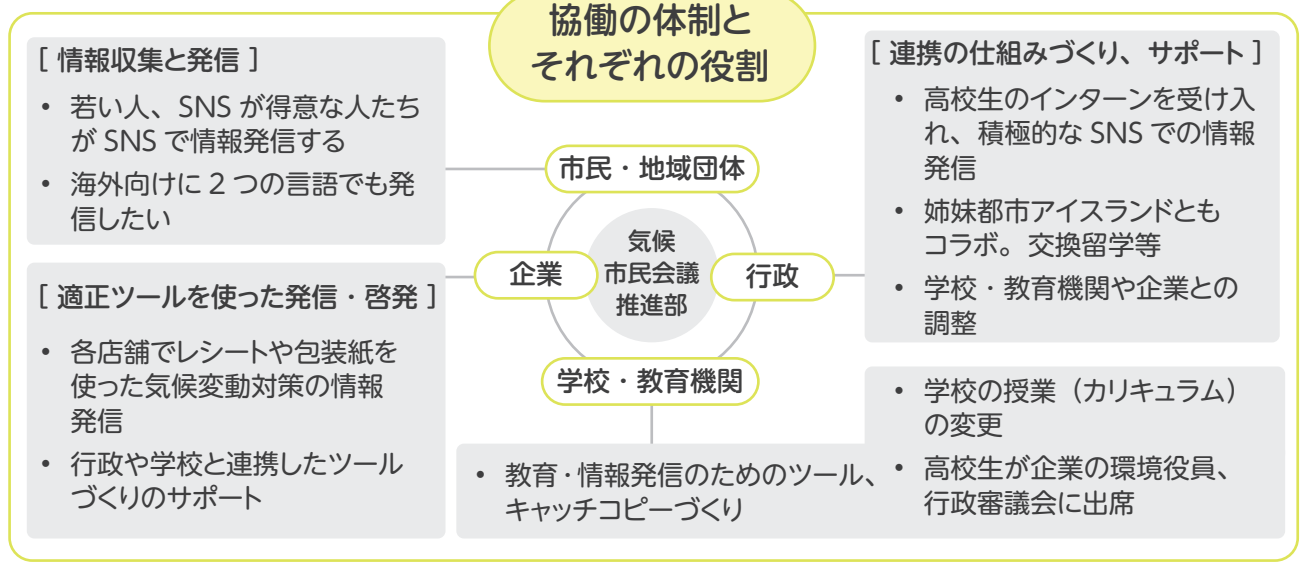
- 気候変動対策の多様なテーマのなかで、すぐに取り組めて重要と位置付けられる教育・情報発信を先んじて取り組み、2050 年に向けたアクションの土台とする
- 気候市民会議で学んだことや大切なこと視点を次のステップに進める、多くの市民に広げていくことが大切であるとする
- 自分の意識を変えていくマインドセットや学校と連携した教育・情報発信を目指す

ことを提案します！

30 年後（2050 年）に向けたロードマップ



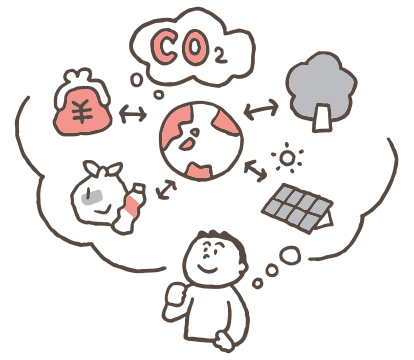
協働の体制とそれぞれの役割



一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えるまち

様々な視点で脱炭素の実現に向けた正しい情報・選択肢を市民、企業、行政、教育機関で共有する

- 脱炭素の実現に向けて、何が正しいか分からない人へのアプローチとして、実態や最善のアクションの理解を深めることが大切
- 深い議論やコミュニケーションを経ることでマインドチェンジする
- 正しい情報や知識を得ることで市民が、企業や行政に関わるきっかけにする



まずは自分の生活のことを“知る”ことから始めて排出量を意識する

- 家族間、親子間で情報共有するなど、気候変動の現状や自分たちの生活の実態を把握する
- 食べ残し、買いすぎ、リサイクル、節水・節電、移動など、自分の生活で楽しめること、プラスになることから行動する
- 自らの行動が料金の節約や健康づくりにもつながり、モチベーションが維持できることが大切

小中学校から環境や気候変動についての教育が充実し
情報発信を積極的に行うまち

教育機関と連携し、脱炭素について知る・学ぶ・考える場やツールをつくり、コミュニティづくりにもつなげる

- 高校生がつくる気候変動ゲームを小学校の授業で実践するような、小学校・中学校・高校の教育現場で活用できる場やツールをつくる
- 学生、大人、子ども向けで T-dance のような動画をコンペで募集するなど、SNS や YouTube、CM 等のメディアを活用した情報発信を行う
- 学校単位でなく、ALL 多摩の生徒会で取り組むなど、各教育機関同士が連携し、学校の授業（カリキュラム）で取り組みやすくなるような仕組みをつくる

SNS で多摩市気候市民会議を国内外に宣伝し、将来的に環境や気候変動に関心のある市民が興味を持ってくれるように発信する

- 多摩市での気候変動の楽しそうな取組を発信し、ブランディングする

国内外に向けた多摩市大人の見学ツアーで「環境都市 多摩」をアピールする

- エコプラザ、ダストシュート、清掃工場、市庁舎改修を見学し、海外を含む他都市にアピールしたうえで取組を推進する
- 街路灯のソーラー化、人感センサーによる省エネ化
- 海外への発信により、更なるネットワークやムーブメントづくりにつなげる

取組提案

取組提案

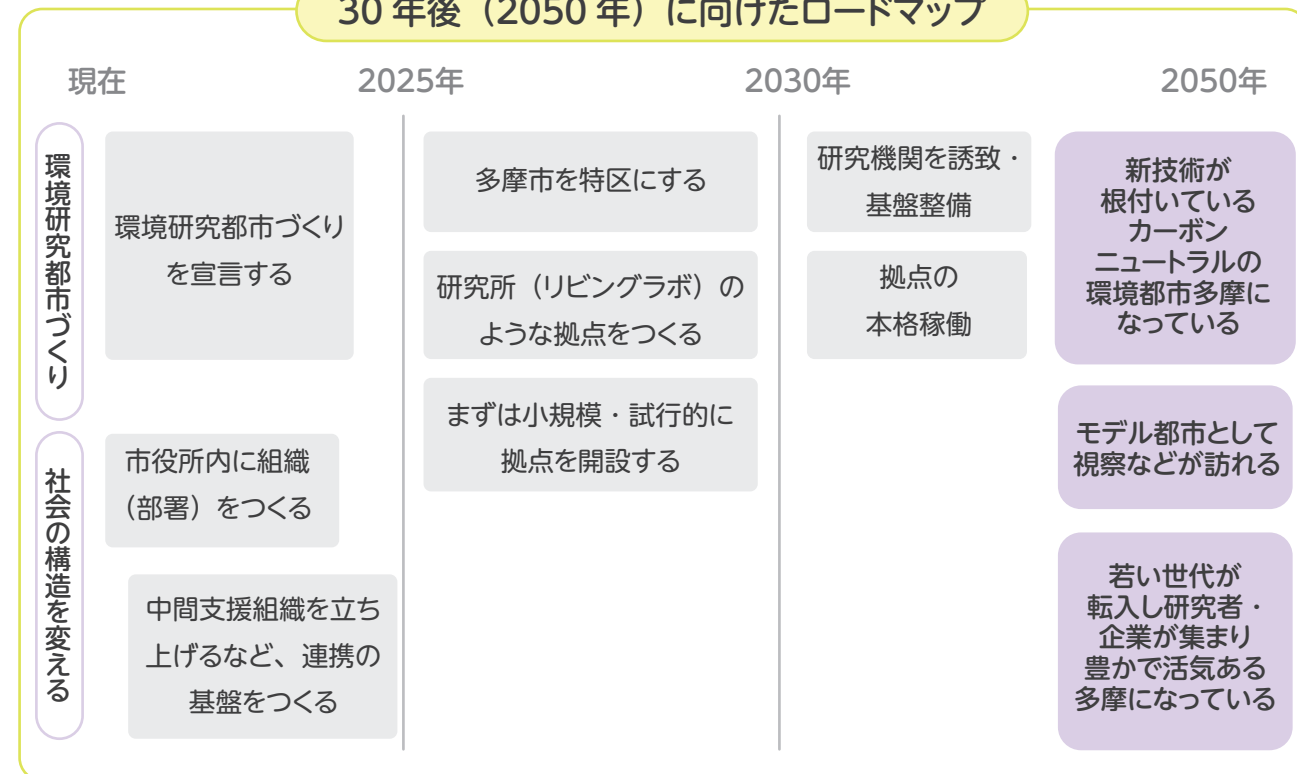
イノベーション・新技術・研究

私たち多摩市気候市民会議は、

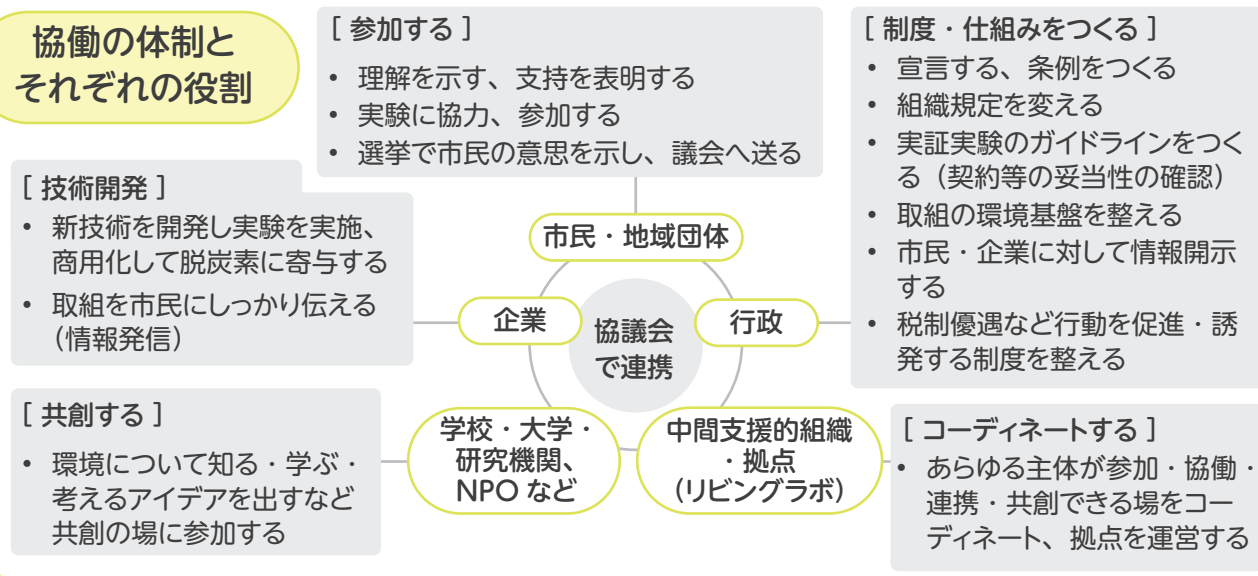
- ・ 一人ひとりが当事者として、将来にわたって豊かな暮らしが続いていくように、
- ・ 市民、行政、企業、学校など、あらゆる主体が参加・協働・連携して共創し、
- ・ イノベーションや新技術による脱炭素社会を実現させるしくみをつくる

ことを提案します！

30年後（2050年）に向けたロードマップ



協働の体制とそれぞれの役割



凡例

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える取組
重要度：大 難易度：中

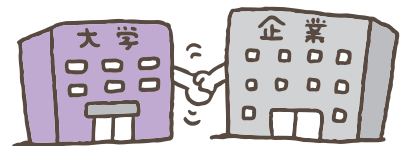
デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

企業や大学等との連携を活かして気候変動対策が加速したまち

グリーントランスフォーメーション（GX）を応援・支える、社会の構造を変える

「CO₂削減」の技術会社に投資したり、ユーザーになるなどして、協力・応援する

- ・ GX に絡んだ新しい取組に理解を示し、応援していることを伝える
- ・ 株主になるなどして、企業を応援する
- ・ 地産地消のエネルギーのユーザーになる
- ・ 社会実験などに参加・協力する
- ・ 個人も起業、商品化、サービス化して環境で儲ける



新技術を持つ脱炭素に取り組む優良事業者への法人税減免などの優遇措置、社会基盤を整備する

- ・ 個人の脱炭素行動を誘発するポイント制や、事業者向けの税制免除・優遇措置を設ける
- ・ GX 投資の利益に減免して個人の資産形成もはかる

「炭素税」のように、CO₂排出量を商品価値と連動させる

- ・ 容器包装・商品の製造、消費の CO₂排出量に応じた税金の課金（例：ごみ袋有料化）

【関連テーマ：ごみ・資源循環】

取組提案

環境研究都市づくり

今はない新技術を生み出す環境研究都市づくり“Test Town TAMA”として、研究機関等を誘致したり、大学等と連携して社会実験や取組を実施する

- ・ 廃校や移転跡地を活用し、まちの機能更新をはかる
- ・ 若い人や研究者などの転入を促進する
- ・ 住宅地としてエネルギー・食料を消費するだけの「ベッドタウン」を付加価値創造のまちにする
- ・ ごみの分別による再資源化・エネルギー化、バイオマス発電、再エネ技術を導入する企業を誘致する
- ・ 実証実験の受け皿、情報発信の拠点となる「ラボ」をつくり、市民・行政・企業・学校などが参加したり、小さな組織やマイクロファクトリーが点在して、それぞれが脱炭素に向けたチャレンジをできるようにする。
- ・ 多摩ニュータウンの団地更新とともに、新しい活用の実験をする
- ・ まち全体にスマートグリッドという新技術を導入、地域内に電気の発電と配送網を整備するエリアを設ける
- ・ 汚れたプラスチックを再生するなどごみの有効活用をはかる実験的な取組をする
- ・ 期間、エリアを限定してペットボトル飲料の販売禁止などを試行してみる
- ・ 個人・事業者の CO₂ 排出量を一瞬で見える化する技術を導入する
- ・ 先進的な取組で有名になり、シビックプライドの醸成につながる

【関連テーマ：全テーマ】

参考 具体策への評価アンケート結果

多摩市気候市民会議にご協力いただいたみなさま

実施概要

目的：

- 脱炭素に向けて、多摩市ではどのような将来像を描き、どのような具体策を実施すべきかをまとめていくために実施

回答期間：2023 年 6 月 23 日（金）～7月1日（土）（9日間）

対象：多摩市気候市民会議 参加者

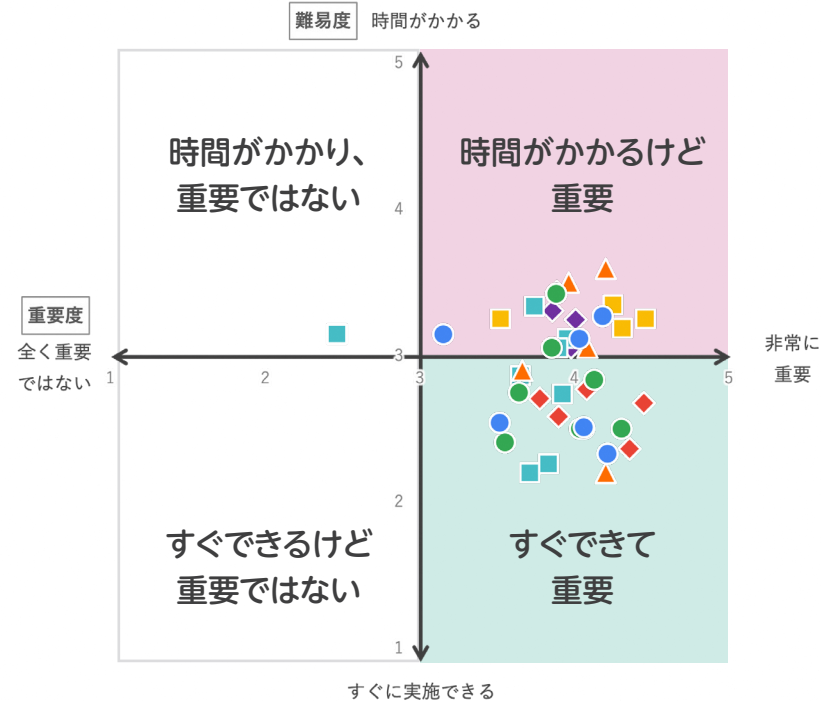
回答数：33 件

形式：オンライン（一部手書き記入）

内容：

- 第2回・第3回でまとめた「具体策」のアイデアについて、それぞれの重要度や難易度について評価

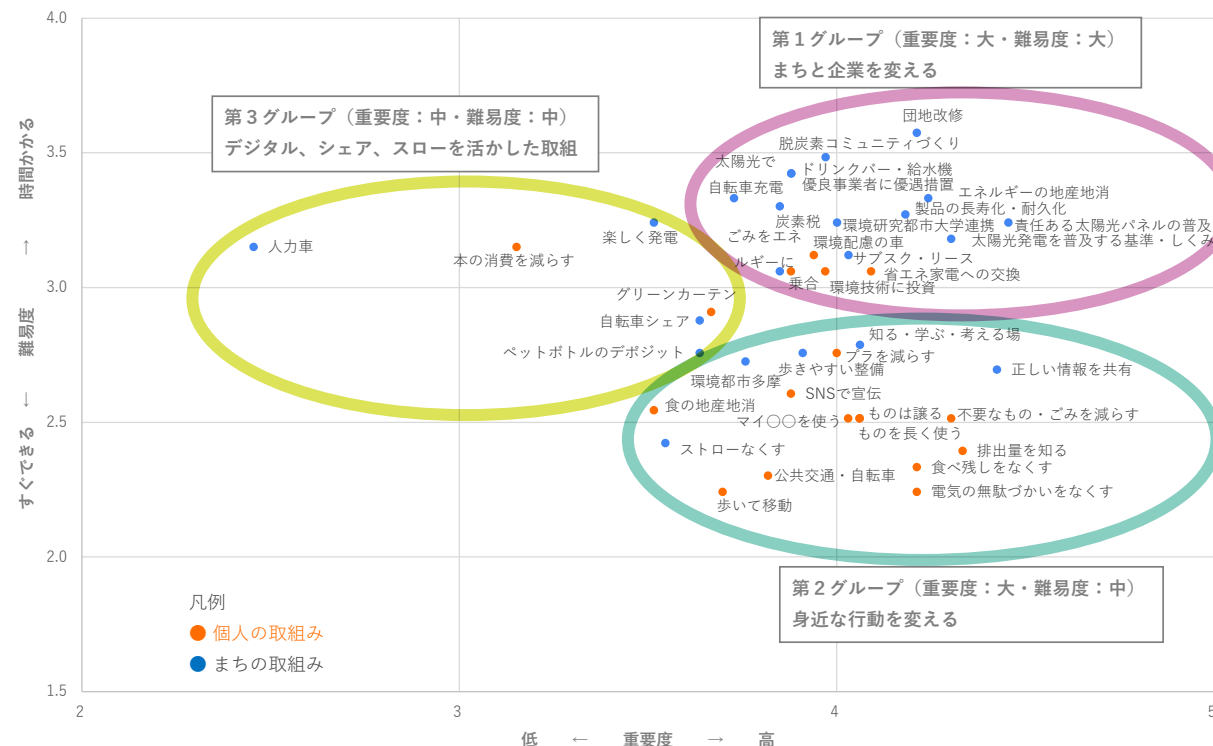
全取組提案の重要度と難易度



凡例
● 食・消費 ● ごみ・資源循環 ▲ 暮らし・住環境 ■ エネルギー
■ 移動 ◆ 教育・情報発信 ◆ イノベーション・新技術・研究

全取組提案の重要度・難易度を3つの分類に整理しました

テーマ別提案の取組提案は、アンケート評価結果の分析を元に分類しています。



凡例
● 個人の取組み
● まちの取組み

様々な分野の講師をお招きして、気候変動の世界的な現状、多摩市での実態や、地域における活動について学びました。



アドバイザー／ゲストティーチャー

江守 正多

東京大学未来ビジョン
研究センター教授
国立環境研究所上級
主席研究員

棚橋 乾

元多摩市立小学校校長

山下 紀明

多摩市みどり環境審議会
地球環境分科会会長
特定非営利活動法人
環境エネルギー政策研究所
(ISEP) 理事・主任研究員

金子 貴代

再エネ 100 宣言
RE Action 事務局
ネットゼロリンク
合同会社 代表



アドバイザー

三上 直之

北海道大学 高等教育推進機構
准教授



第 2 回ゲストティーチャー

江川 美穂子

たまごみ会議



西 厚

多摩市水辺の楽校運営協議会
会長



第 3 回ゲストティーチャー

小山 貴弓

よみがえれ、大栗川を楽しむ会
事務局メンバー

川添 修

多摩グリーンボランティア森木会
名誉会長

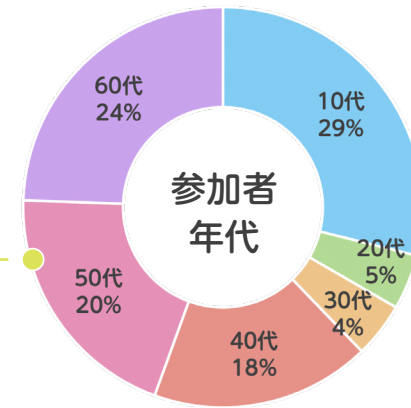
高野 義裕

多摩市若者会議

参考 多摩市気候市民会議のプロセス

INFORMATION

- ・ 無作為抽出等で 2,000 名の市民に招待状を送り、希望した 45 名が参加
- ・ 参加者は 10 代～60 代、多摩市在住・在勤・在学
- ・ 多摩市の気候変動対策や取組について全5回にわたって議論
- ・ 主催：多摩市役所



参加者を代表して、
阿部市長に「市民提案」を
提出しました！

私たちが
多摩市気候市民会議に
参加し、
提案を考えました！

多摩市気候市民会議と「市民提案」ができるまでの歩み



基礎を学び、まちの将来像を描く
専門家から気候変動の基礎を学び、30年後（2050年頃）に目指したい、多摩市の環境と社会のイメージを出し合いました。



脱炭素に向けた具体策を考える
個人ができる取組やまちに必要なしくみから、脱炭素に向けた具体策を検討しました。



アイデアを評価する
第3回と第4回の各回での投票に加えて、具体策のアイデアに対して、重要度と難易度を評価するアンケートを実施しました。



テーマごとに提案を深める
7つのテーマ別のグループに分かれて、これまで出し合ったアイデアを提案として深めていきました。

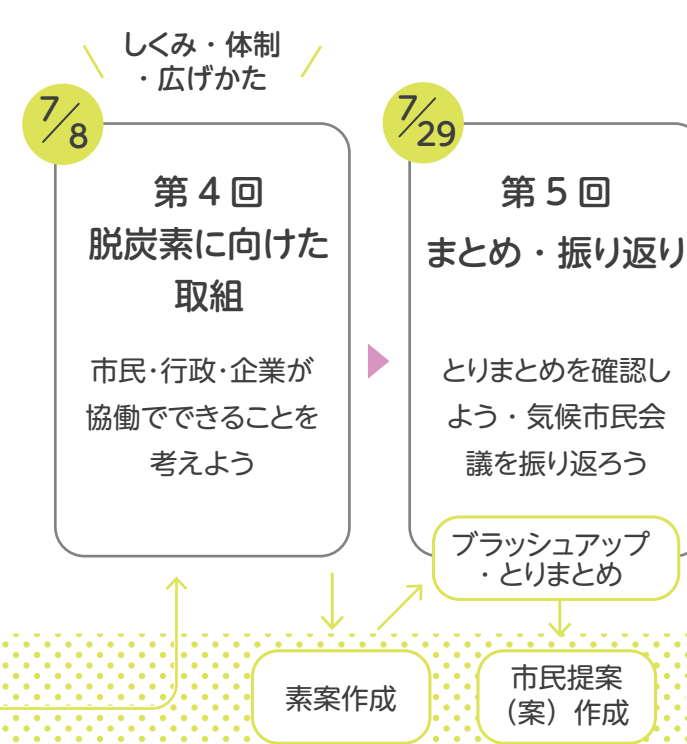
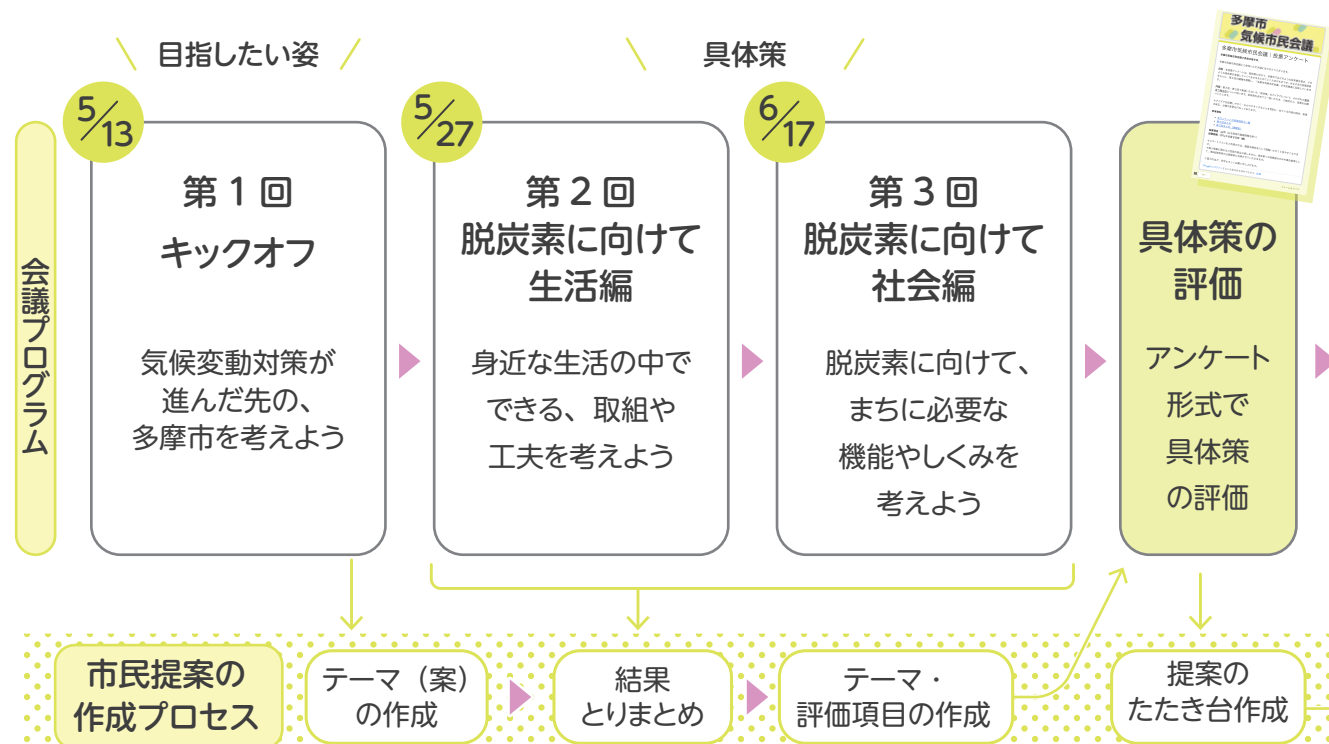


まとめ
市民提案の素案をテーマごとに確認し、全体方針をみんなで議論しました。市長に提案を提出しました。



各回のまとめ
具体的な
アイデアの詳細

<https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/kankyo/hozen/1010569/1011170.html>



「次期多摩市
みどりと環境
基本計画」

への反映
2024年3月頃予定